

令和6年度 学校自己評価結果等報告書

学校名（ 豊岡市立豊岡小学校 ） 校長名（ 和田 晃典 ）

1 学校教育目標

自分は自分を創る主人公 ～なりたい自分をめざして～

2 学校教育推進の視点

- ◎ 肯定的な関わりの中で主人公である子どもを育てる
 - (1) 子どもの事実に学び、寄り添いの質を高める
 - (2) 学習指導と学級経営の充実を図る（授業づくりと学級づくりの一体化）
 - (3) チームで子どもを育て、チームで子どもを鍛えるための同僚性と協働性を高める
 - (4) 家庭・地域との連携
 - (5) ワーク・ライフ・バランスに配慮した働き方改革を推進する

3 総合的な自己評価

学校教育目標の具現化を図るため、子どもを学校の主人公に据え、肯定的な関わりを大切にしながら組織的に教育活動を展開することができている。引き続き、子どもを詳しく観る・子どもの声を良く聴く・子どもの心を深く想像することを基盤に高い同僚性のもと、肯定的な関わりの中で主人公である子どもを育てるという意識を持ちながら、児童や保護者との信頼関係のもと、チームで教育実践を積み重ねていきたい。

4 自己評価結果（A：達成している B：概ね達成している C：あまり達成していない D：達成していない）

領域	評価の観点	評価項目	達成状況	課題を踏まえた改善の方策
教育課程	・ 確かな学力を身に付ける学習指導	「比較、分類、関連付け等」の思考スキルを活用し、3つの対話で学びに向かう力を高める。つまづきに対応した指導の個別化	A	○45分の授業を計画時間数確実に行う。5つの「徹底・継続」実践事項の質の向上、インプットとアウトプットを連動させた授業づくり。 ○学校行事や各教科等を一体的に捉えた、教育課程の編制、教科横断的なカリキュラムの作成。 ○総合的な学習の時間の取組に対する評価検証及び実践の蓄積。 ○ALTの積極的な活用、必然的に英語を活用する場の設定。 ○異年齢集団活動、児童会活動の充実
	・ 道徳教育	話し合いを通して、多様な思いや意見を出し合う授業づくり。	A	
	・ 英語遊び・外国語活動・英語科	必要性のある活動を設定し、ALTとの関わりを通して、積極的に英語を使おうとする意欲を高める。	B	
	・ 総合的な学習の時間	探究的な学習の展開。（課題設定、情報収集、整理分析し、まとめ・表現）	A	
	・ 特別活動	縦割り班活動、委員会活動等への自主的、実践的な取組。	A	
学校運営	・ 開かれた学校づくり	ホームページ、学校だより、授業参観等での特色ある教育活動の展開、発信。	A	○定時退勤日の完全実施。欠席報告、アンケート集計等のデジタル化の推進。業務内容見直し、効率化。 ○小中学校による確実な情報交換、情報共有。連携システムの効果的な活用。 ○痛みの感度を磨く。発達支持的生徒指導の充実、組織対応の強化 ○授業づくりと事後研究を一体に捉えた研修の推進。 ○実効性のある防災・防犯訓練による危機対応の向上
	・ 勤務時間の適正化	月45時間の時間外在校時間を旨す。積極的な業務改善への取組	B	
	・ 引継ぎ連携システムの強化	小中一貫教育プログラムの実施、児童の変容（成果・課題）の評価	A	
	・ 生徒指導（いじめや不登校の問題を含む）	アセス、アンケート等の活用、保護者との連携。チームでの組織的な対応。	A	
	・ 職員研修の推進	「教材・仲間・自分」3つの対話で学びに向かう力を高める。	A	
	・ 危機管理体制の整備	危機管理意識、危機対応能力の向上、実効性のある訓練の実施。	A	
課題教育	・ 非認知能力の向上	褒める・認める・喜ぶ・楽しむことで、非認知能力を高める。	A	○学校行事、学習活動等、全ての教育活動を通して褒める・認める・喜ぶ・楽しむことの意識づけ。 ○探究的な学習展開を意識した授業展開、総合的な学習の時間充実。 ○コミュニケーション能力の視点を意識した授業実践。校内研修との連携 ○キャリア教育の視点を意識した実践記録の蓄積。キャリアパスポートの効果的な活用 ○人権教育の視点を意識した3つの対話の実践。 ○自然や人・ものに触れる体験活動等の充実。 ○実効性のある防災学習・訓練等の実施。
	・ ふるさと教育	指導計画に基づく確実な実施。探究的な学びの推進。	A	
	・ コミュニケーション教育	「めざすコミュニケーション能力の視点と活動例一覧表」の授業実践。	B	
	・ キャリア教育	年間指導計画の見直し、キャリアパスポートの積極的な活用。	A	
	・ 人権教育	肯定的な関わりによる人権意識や自尊感情の醸成。	A	
	・ 特別支援教育	個に対する支援シート等の活用。組織的できめ細かな教育支援	A	
	・ 環境教育	自然、生き物、コウノトリ学習の推進。児童の実践力の向上。	A	
	・ 安全教育・防災教育	教職員の状況判断の向上。実効性のある防災学習・訓練等の実施。	A	
	・ 健康教育・食育・体力づくり・運動遊び	「豊岡市版小学校体育準備運動」等の活用。体力の向上と安定した心の育成。	B	
	・ 読書活動	読書習慣の定着。読書の質の向上。	A	

5 自己評価方法（児童生徒・保護者・教員に対するアンケート等）についての意見・改善点

評価項目を焦点化・具体化し項目を設定しており、保護者の思いを知る取組となっている。今後も子供たちの姿を通し、教職員及び保護者の双方向からの視点で課題の改善に努めていきたい。

6 総合的な外部評価

- ・ 学校運営については、学校評価の評価項目や学校関係者評価等において、一定の理解をいただいております。円滑に運営できていると感じている。引き続き、教育目標を基盤に、子ども達を学校の主人公に据え、保護者や地域との協働のもと、学校運営を行っていききたい。
- ・ ふるさと教育や英語遊び、外国語活動等の推進にあたり、地域ボランティアなどを活用しながら指導内容の工夫を図りたい。勤務時間の適正化について、学校行事の在り方とともに一層の改善を進めていただきたい。

自己評価の妥当性

- ・ 全職員が、子供を学校の中心に据え肯定的な関わりの中で教育活動を行う意識が浸透している。子供の姿（事実）をもとに、それぞれの見方・考え方を重ね合わせながら共有・共感・協働を大切にしながら取り組んでいることは、評価できる。
- ・ 学校運営等について、全体的に高い評価である。日々の教育実践が保護者や児童に理解され、教職員が手応えを感じていることがうかがえる。引き続き、地域や保護者の理解や支援をいただきながら連携した学校運営を行う必要がある。
- ・ 勤務時間の適正化においては、十分な成果が得られていない。業務内容の見直しや効率化を図るなど、一層の業務改善を図っていく必要がある。
- ・ 不登校やいじめ、問題行動に対する取組については、チームで組織的な対応に努めている。今後も情報の共有を図りながら、未然防止、早期発見、早期対応等を図っていく必要がある。また、保護者、関係機関等とも連携しながら必要な支援を行っていききたい。
- ・ 読書活動については、図書館、家庭との連携を行いながら読書の習慣化に向けて効果的な取組を探っていききたい。